

【ベンチ入り戦術指示スタッフ研修会】

開催日時：2018年5月27日（日） 16：30～

開催場所：ひとめぼれスタジアム 研修室

[目的] 各種大会等における「ベンチ入りスタッフ（指導者）」の質の向上
ルールとマナーの確認、そして“選手育成のために”

サッカー競技規則 第一条 第九項 「テクニカルエリア」
『その都度ただ1人のみが戦術的指示を伝えることが出来る』

講師：チーフインストラクター 池田晃一氏

【指導者の持つべき資質 ～輝く選手育成のために～】

昨今の報道等々にも見られるように指導者の“暴言・暴力”、単純に「言葉づかい」に関する指導者に対する視線は、厳しいものがありますが、それは同時に『指導者の質』を問われていること。

「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする」 by デッドマール・クラマー氏
(日本サッカーの父)

“サッカー”の部分は、すべてのスポーツに置き換えて捉えることが出来るものですが、この言葉から言えるように、『良い人間性を備える必要』があります。[人間力の育成]

サッカーの本質を知る大人は紳士であるはずであり、サッカーを教える大人もまた紳士でなければならない。

指導者としてプライドを持ち、その上で十分なチカラを発揮し、人としてもしっかりと人間でありましょう。

サッカーは、人を人として高める、人としての質の向上にも繋がるものでなくてはならない。

その為には、、

「目標をしっかりと定める」・・・今現在から、目標に到達する“喜び”を知ることが出来る。
これが一流。

目標に到達するためには、「苦しい思い」も「辛い思い」もしなければいけないが、その“思い”も楽しむことが大切です。

指導者の基本姿勢・・・常に子ども達の見本であること (Good Standard)

・指導者は、“常に見られる存在”

「あいさつ・規律・服装・食事」、指導者もまた、その“態度”・“行動”は見られる存在であることを知らなければならない。

良い指導者とは、子ども達に何をどう教えていく？

学校では・・・Teaching (伝える) スポーツでは・・・Coaching (導く)

[coach 馬車]

「ティーチング (Teaching) とコーチング (Coaching)」

・ティーチング (Teaching)・・・教える

判断する材料 (基本戦術) が無ければ、的確な判断は出来ない。

プレーの基準を持っていない選手に自由を与えることは出来ない。

・コーチング (Coaching)・・・導く、引き出す

サッカーのプレーは選手自ら決断して実行する。その連続である。

サッカーに模範解答は無く、たくさんの解決策や可能性がある。

自ら考え、行動し、解決できる「自立した選手の育成」にはコーチングが有効

(コーチの伝えたいことを押しつけることではない！)

具体的にほめる 褒めることでプレーの基準を示す 次も褒められようと意欲が湧く

== [ティーチングとコーチングのバランスが重要] ==

やらせるサッカーからの脱却、思考を停止させないアプローチ

指導者に求められる資質

・能力を最大限に引き出して上げること

・自分で気づいて、解決する能力を身につけさせること

・選手が良い結果を得られていない原因は、具体的に示さなければならない。

あいまいな表現では子ども達 (選手) は、何を言われているかを明確に理解出来ない。

明確・的確な表現をすることで子ども達 (選手) が理解できるように示す。

脳科学の観点からも “脳のご褒美は『楽しい』” である。

指導者の役割は、、、

・現象 (結果) から原因を探れる「観察力・分析力」

(全体から詳細へ、いつ・どこで・何が起こっているか等)

・その原因を選手 (子ども) に気づかせること

観察力・・・いつ観察するか、どこで観察し判断するか (視野の確保)

指導者は、Coach (導く)・・・「判断の材料を提供すること」「気づきに導く投げかけを」

気づかせる指導 子ども達 (選手) が答えを見つける

子ども達 (選手) に、考えること (思考) を止めさせない事が重要

「観察と分析」

観察：What?・・・何だろう。。

分析：Why?・・・何故だろう。と原因を分析する。(分析：Analysis)

『サッカーは、サッカーをすることで上手くなる』

[ドリル練習の落とし穴]

形優先ではなく、一つ一つの意味をしっかりと子ども達 (選手) に伝えていかないと “形” を優先にして反応するだけになり、“考えること (思考)” から離れてしまうケースに陥ってしまう。

【哲学のない指導者に選手はついていかない】

ピクニックの法則 (PIC/NIC) 行動分析科学用語

Positive	Negative	(褒める	叱る)
Immediate	Future	(直ちに	将来)
Certain	Uncertain	(確実	不確実)

- ある行動を
1. 褒める (Positive) 叱る (Negative)
 2. 直ちに行うか (Immediate) 将来か (Future)
 3. 確実か (Certain) 不確実か (Uncertain) の組合せのうち
- 褒める・直ちに・確実に (PIC) が最も効果的に行動を持続させることが出来る
褒めるにしる・叱るにしる・将来不確実 (PFU/NFU) が最も効果が無い

【参考】

- ・学ぶことを止めたら教えることを止めなくてはならない リジェ・ルメール
- ・大事なのは今日の結果ではなく、明日子どもがどんなプレーをするかを楽しみにすることである イビチャ・オシム
- ・監督の仕事は、監督自身が見つけた回答を選手に押しつけることではない アーセン・ベンゲル

最後に、、、

ベンチ入りスタッフとしての本研修の目的と意味について質問が上がりました。

その回答として、(本文の最初にも記入していますが)

「ベンチからは、その都度ただ1人のみが戦術的指示を伝えることが出来る」

これを前提に、通常主に“監督”がベンチから試合中の声を発信する役割であり、監督不在の時にベンチに入らなければならなくなった場合、コーチが適切な声掛けの能力を養うための研修でもある。

そしてまた、ベンチでの声掛けのみならず、日々の“声掛け”も重要であり、日常においても“声掛けのトレーニング”を意識することが監督・コーチ・スタッフには必要である。かと。

[声の掛け方：5W1Hの重要性を認識しよう]